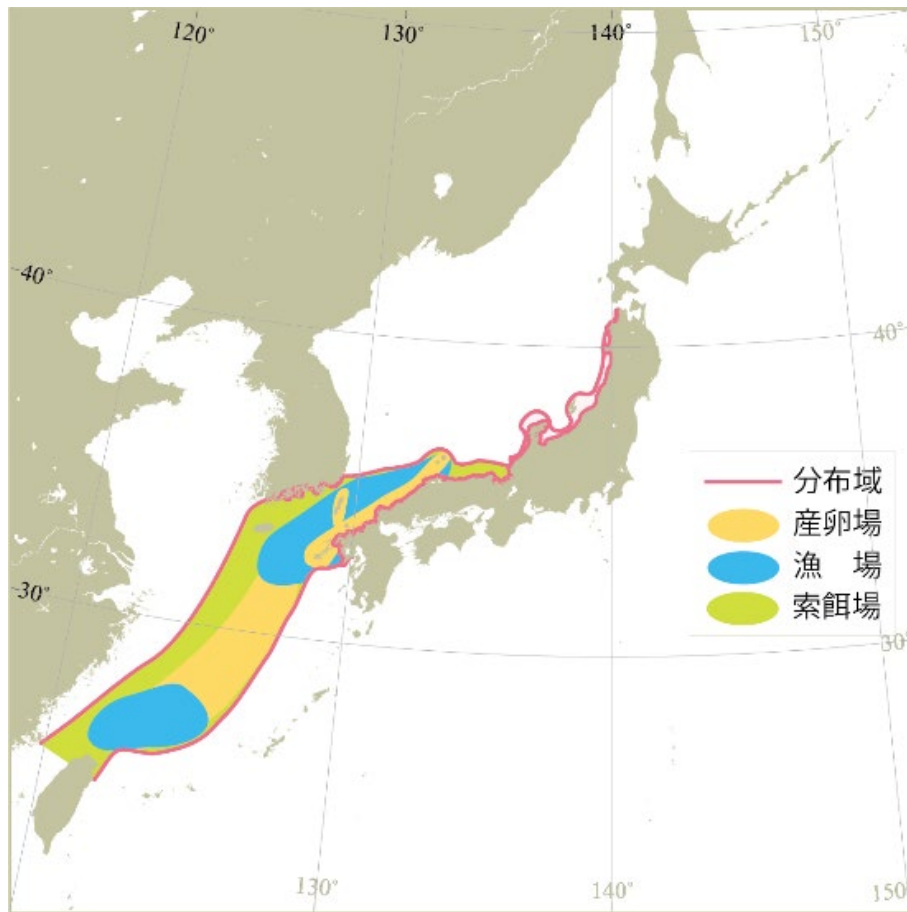




ケンサキイカ  
日本海・東シナ海系群  
令和3年度資源評価結果

# 生物学的特性

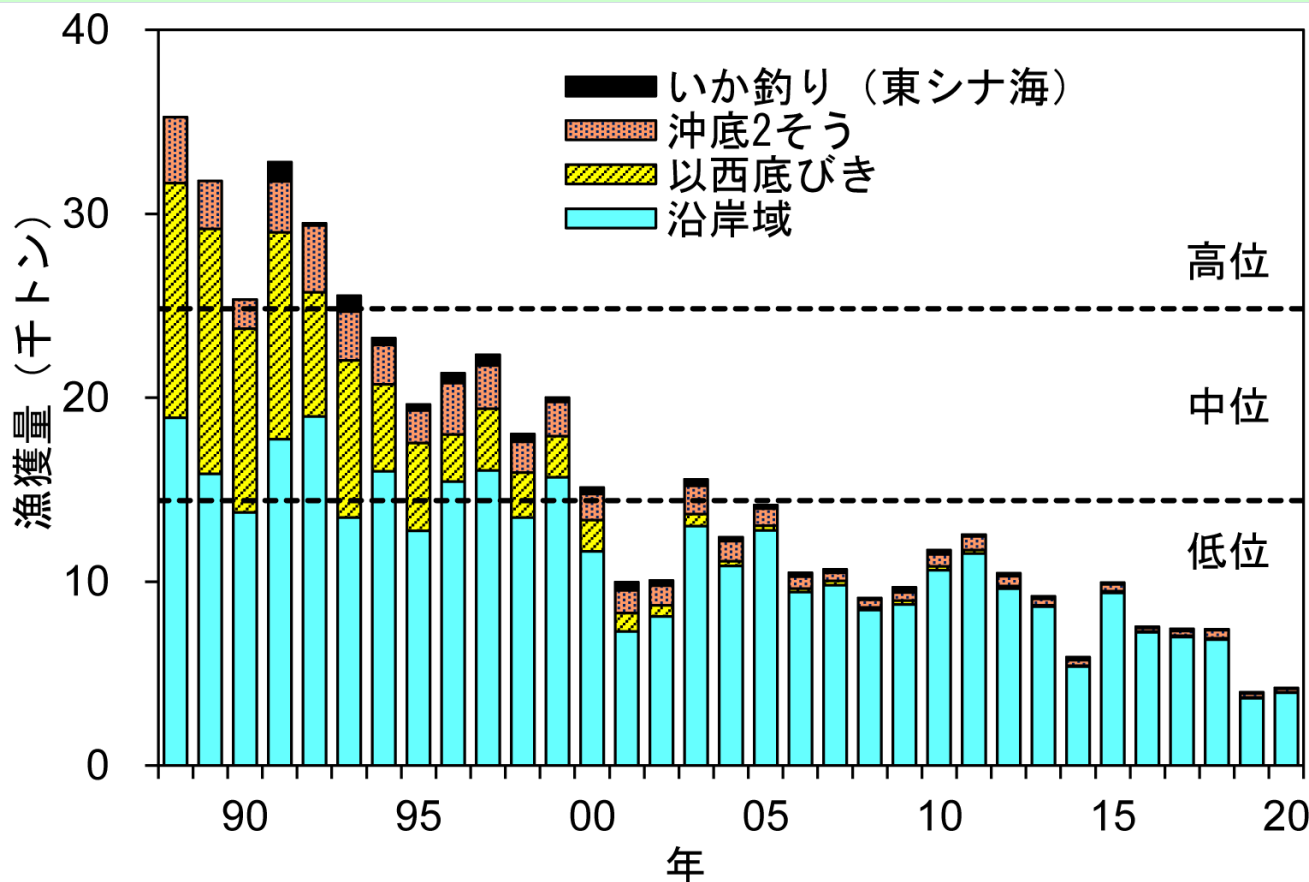


## 生物学的特性

- 寿命：1年
- 成熟開始年齢：  
5ヶ月（一部）、8ヶ月（ほぼ50%）、  
10ヶ月（100%）
- 産卵期・産卵場：  
周年（盛期は冬以外）  
主産卵場は東シナ海南部
- 食性：  
小型魚類、甲殻類、軟体類
- 捕食者：  
魚類

- 我が国周辺、東シナ海、東南アジア等の陸棚域に広く分布
- 海域、季節、性別による成長差が大きい
- 我が国の漁場に来遊する資源の主体は東シナ海南部起源と推定されている

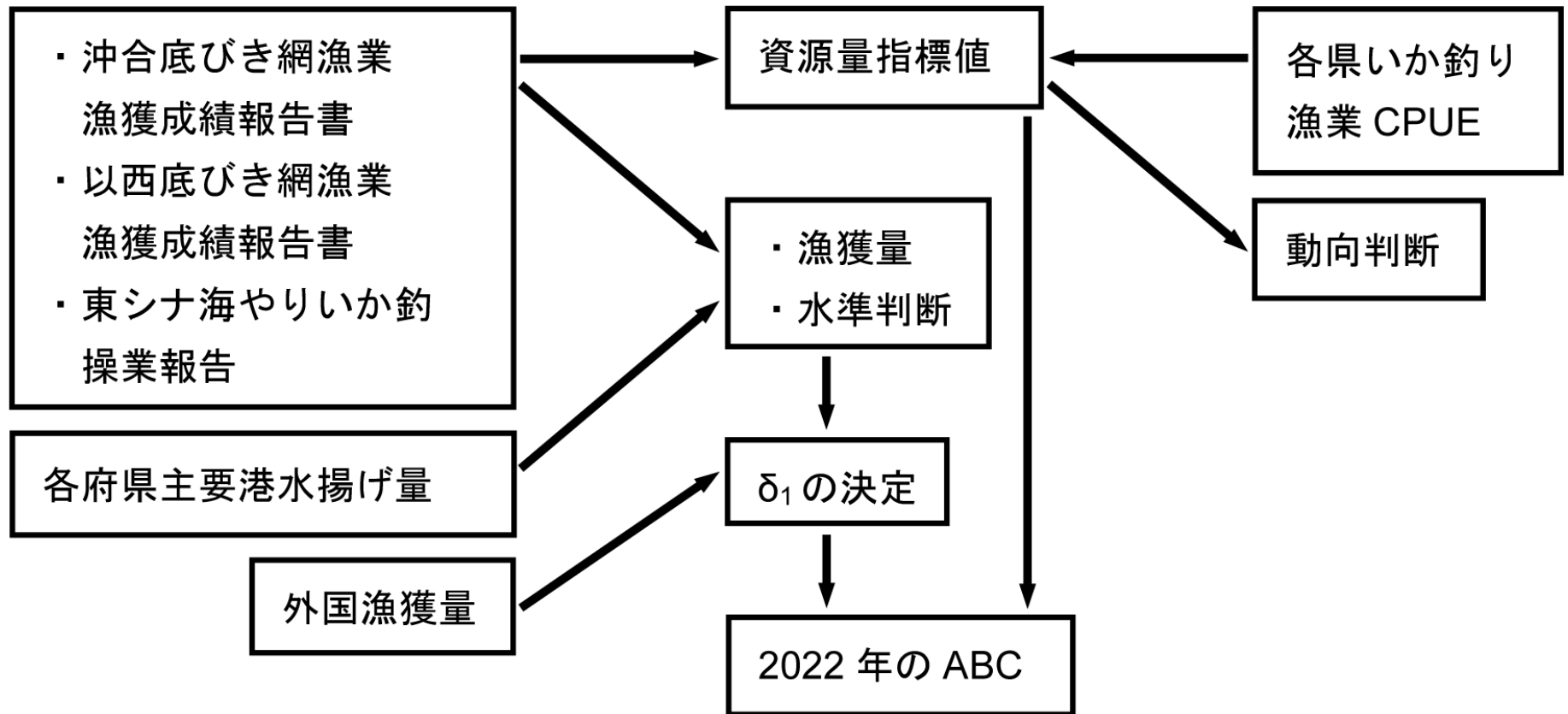
# 漁獲の動向



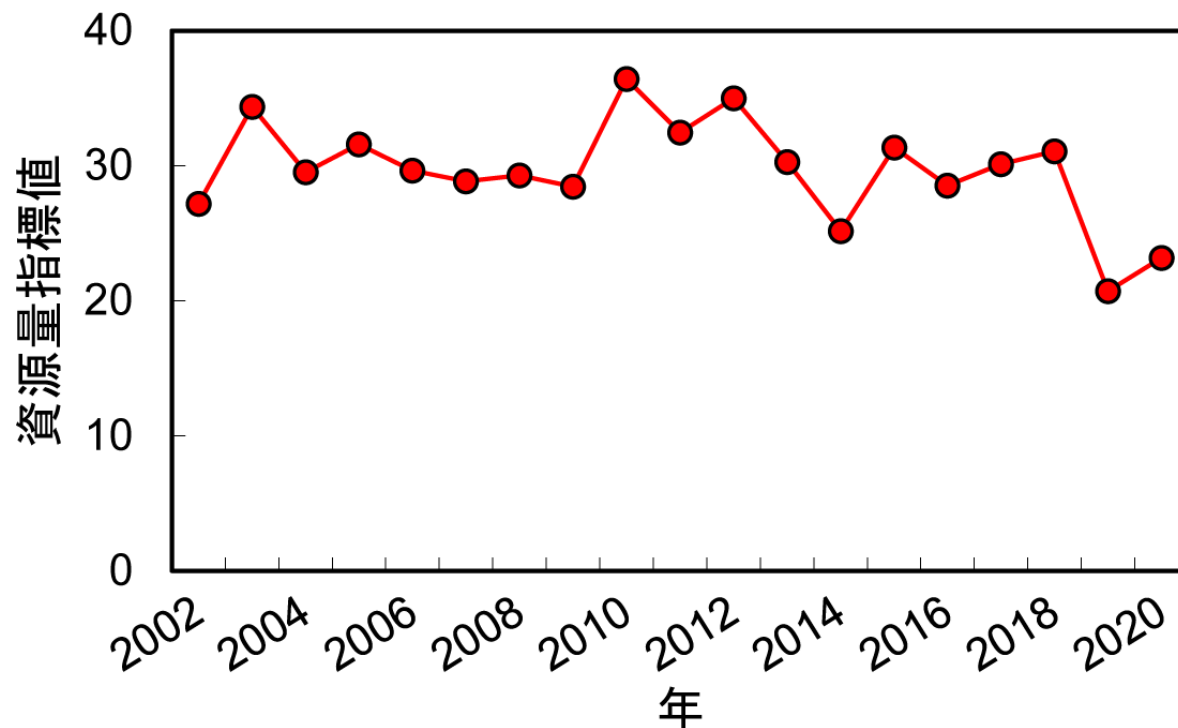
※水準区分 1988年以降の総漁獲量の最大値と最小値の範囲を3等分

- 1988～2000年にかけて漁獲量が大きく減少し、2001年以降は1万トン前後であったが、2019年に過去最低値を記録
- 2020年は過去2番目に低い漁獲量 (4,232トン)
- 資源水準：漁獲量の水準から「低位」

# 資源評価の流れ



# 資源の動向



※沿岸域におけるいか釣り、東シナ海におけるいか釣り、2そうびき沖底および2そうびき以西の単位努力量あたり漁獲量（CPUE）から算定した来遊量指数を資源量指標値として、資源動向の判断に資した

- 2002～2018年は横ばいで推移したが、2019年に大きく低下
- 2020年はやや上向いたものの、過去2番目に低い値
- 直近5年間（2016～2020年）で見ると減少

# 資源評価のまとめ

- ケンサキイカ日本海・東シナ海系群の資源水準は低位、動向は減少
- 漁獲量および資源量指標値に基づいて資源状態を判断

## 2022年ABC

管理基準	Target/Limit	2022年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値 からの増減%)
1.0・Ct・0.84	Target	29	—	—
	Limit	36	—	—

- ABC算定規則の2-1) により、 $ABC\ limit = \delta 1 \cdot Ct \cdot \gamma 1$ で計算
- $\delta 1$ : 1.0 (低位水準だが、我が国周辺漁場に来遊するケンサキイカは外国漁船の影響が大きい東シナ海南部が起源で、我が国の努力量が資源全体に及ぼす影響は小さいため)
- Ct: 2020年の漁獲量